

2023年3月2日

## 立命館慶祥高等学校 第28回卒業証書授与式に係る式辞

立命館慶祥中学校・高等学校

校長 江川 順一

ただいま、卒業証書を授与いたしました、第25期、325名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとう。

「たとえ転んだとしても、何度でも立ち上がることでできる力が自分にある、という確信を持って3年後を迎えてほしい」。これは、3年前の4月、久保田泰浩学年主任が、学年通信『百景』第1号で記した言葉です。あなたには、今、「何度でも立ち上がることでできる力がある、という確信」はありますか。

3日前、刷り上がったばかりの卒業アルバムのページをめくりました。最終ページに、卒アル委員長の松枝勇樹さんの編集後記が載っていました。「卒業アルバムが完成して、皆さんの写真を見ていると、ほとんどの写真でマスクをしているのが、コロナ禍の3年間だった、というのが印象深いアルバムでした。」とありました。卒アル委員長ならではの実感が、胸に迫りました。私は、3年前のコロナを振り返っていました。

2019年12月に武漢市で報告された新型コロナウイルスは、翌年1月には国内初の感染者を出しました。道や国による緊急事態宣言が発令され、2月から4月まで臨時休校。5月はオンライン授業、6月は分散登校、7月に通常授業となりましたが、宿泊研修は中止、高体連の大会もすべて中止。皆さんが入学する前から、コロナは国内外で猛威を振るっていました。マスク着用、黙食、ディスタンスの確保と、それからの3年間、コロナ対応の記憶は尽きることはありません。

しかし、皆さんは、この3年間、「コロナがもたらす停滞」を跳ね返す取組に精を出し続けました。そのいくつかを取り上げます。

まずは、立命祭。

学校祭は、多くの学校で中止となりました。しかし、立命祭は3年間連続して開催できました。これは、生徒会長の澤里柚寿さんはじめ、生徒会が中心となって、活気に満ちあふれ、バイタリティの高さで困難を乗り越えるパワーがあったからこそ実現できたのです。コロナにあっても、生徒会が決して諦めることなく「立命祭をやり切ること」、これを決意して、最後まで貫いた結果でした。

次に、高2の研修旅行。

コロナで海外への門戸が閉じたため、全国すべての学校が延期の末に中止、もしくは国内研修への振り替えを余儀なくされました。実施した学校は、日程や内容を大幅に縮小していました。しかし、慶祥は国内研修への振り替えを逆手に取りました。それは、皆さんからコース案を募集し、提案者自らが皆さんにプレゼンし、皆さんが投票して決めるという画期的なコース設定でした。その結果、東北、石川、関西、瀬戸内、九州、座間味島、八重山諸島、屋久島・種子島の8コースを実施しました。

皆さんの研修旅行は、現地に足を運び、現地の人と話をして自ら体験することにより、人生観を変えるほ

どの深い学びを得ることができました。海外研修に匹敵するような経験を獲得することができたのです。

また、部活動や課外活動でも、顕著な成績を残すことができました。

全国大会に出場したクラブは、数多ありました。とりわけ、ラグビー部の花園初出場は素晴らしかった。宿敵札幌山の手を破っての全道制覇に続き、花園初戦の石見智翠館との対戦では7対34と完敗だったものの、1トライ・1ゴールを決めたことは大きな収穫でした。喉から手が出るほど欲しかった花園の1トライ。あなたの活躍に、必ずや後輩たちが、あなたの背中を追いかけて花園初勝利を成し遂げるでしょう。

校外で実施されるコンテストの成果も華々しかった。あなたの学年は、国内大会でも傑出した成果を次々と叩き出しました。そして、世界大会においても、国際化学オリンピック金メダル、Math A-lympiad 世界第1位など、「世界に通用する18歳」の面目躍如たる活躍、というより、もはや「世界を極める18歳」に到達したのです。

立命祭、研修旅行、部活動、課外活動。あなたの興味や関心が、あなたの取組が、コロナの蔓延によって、停滞するどころか、かえって外に向いて進捗しました。

未知のコロナウイルスは、私たちの不安を大いにかき立てました。その不安に絡め取られそうになったこともあるでしょう。しかし、真実を信頼し、妄想を克服し、経験のない困難な状況に対して、決して諦めることなく乗り越えるマインドと想像力があれば、打ち克つことができるとわかったのです。

コロナ禍の猛威にさらされながら、ピンチをチャンスに変えることができた、あなた。

「たとえ転んだとしても、何度でも立ち上がることのできる力が自分にある、という確信を持って、今日を迎えた」あなたが、今、ここに座っています。

現代は、コロナのパンデミック以外にも、ロシアのウクライナ侵攻、それに伴うエネルギーの需給逼迫、米中関係の緊張、世界経済の景気減速など、直面する課題が山積し、危機的な状況にあります。明日は何が起ころか、誰にもわからないのです。このような状況だからこそ、改めて思い出してください。

立命館慶祥高校で、「世界に通用する18歳」を目指し、そのために「3つのC」である、「Contribution」、「Collaboration」、「Challenge」を実践したことを思い出してほしい。社会や世界に「貢献」する高い志をもち、人種・宗教・文化の違いを超えて、互いに議論し、「協働」して答えのない課題の解決に「挑戦」したことを、忘れないでほしいのです。

最後に、改めて、問いたい。

「あなたは誰のために学び、誰のために生きるのですか。」

私は、あなたに、自分の可能性を追求し、新しい時代を切り拓く先駆者になってもらいたいと願っています。立命館慶祥の卒業生としてひたむきな眼差しをもち、胸を張り、そして自信をもって、先の見通せない不確実な世界に、満を持して船出をしてほしいのです。

保護者の皆様、本当におめでとうございます。卒業を迎えたお子様の立派な姿に、感慨も一入のことと思います。また、3年間、コロナの渦中であって、本校の教育活動に寄せられました皆様の深いご理解とご支援に対しまして、厚くお礼申し上げます。

卒業生のあなた、明日からのあなたを待ち受けるのは、山あり谷ありの人生行路です。

私学は家族です。私たち教職員は、いつまでもあなたの応援団です。これから先、困難な場面に出会って辛くなったら、この学び舎に帰ってきてください。あなたのことを決して忘れない先生方が、ここで待っています。

それでは、希望に満ちた今日の旅立ちの日に当たり、この学び舎を巣立ちゆくあなたの前途に、幸多からんことを心から祈念して、私の『式辞』といたします。